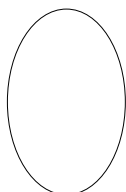


泌尿器科専門医コース

1 コースディレクター、副コースディレクター紹介

コースディレクター： 山口 脩



(略歴)

1973年 東北大学医学部卒業

1979年 米国留学(1981年まで)

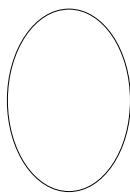
1984年 福島県立医科大学医学部講師

1993年 福島県立医科大学医学部助教授

1996年 福島県立医科大学医学部教授、泌尿器科部長

学会認定医・専門医等 泌尿器科専門医・指導医

副コースディレクター： 嘉村 康邦



(略歴)

1985年 福島県立医科大学医学部卒業

1996年 福島県立医科大学医学部講師

1999年 米国留学(2000年まで)

2005年 福島県立医科大学医学部泌尿器科副部長

学会認定医・専門医等 泌尿器科専門医・指導医

2 プログラムの目的と特徴

卒後臨床研修(2年間)終了者に対し、新しい時代のニーズに答え質の高い医療を提供できる泌尿器科専門医の養成を目的としたプログラムである。泌尿器科疾患の中には、急増する前立腺癌、前立腺肥大症、尿失禁や排尿障害、脳死からの腎臓移植など社会的関心が寄せられているものが多い。まさに21世紀は泌尿器科医が要望される時代とも言える。本プログラムの特徴は、4年間の専門研修期間中に大学病院と選別された関連病院で研修を行ない、専門医取得に必要とされる症例数や手術件数を効率よく達成できることである。

3 取得できる専門医名

泌尿器科専門医

専門医研修4年目の8月に実施される資格試験に合格し、翌年3月31日まで研修を終了すると泌尿器科専門医に認定される。また、泌尿器科専門医を取得することにより、「泌尿器腹腔鏡技術認定医」の受験資格を得ることができる。

4 専門医取得の要件

- 1) 泌尿器科専門医認定に必要な研修期間は、卒後臨床研修2年に泌尿器科専門医研修4年を加えた計6年間である。
- 2) 卒後臨床研修(2年)終了後の4月から6月の間に、研修施設と日本泌尿器科学会の専門医制度審議会に「研修開始宣言」を行ない、専門研修を開始する。
- 3) 資格試験に合格していること
専門研修3年を終了すると受験資格が得られる。
- 4) 経験した症例及び手術件数(各手術ごとに件数が推奨)をまとめた診療実績記録を提出すること。
- 5) 卒後・生涯教育プログラム、学会発表、学会参加により教育研修単位を100単位以上取得すること。

専門医認定までのタイムスケジュール

専門研修

1年目	4月	5月	6月							12月	1月	2月	3月
	← 研修開始宣言 →												
2年目	4月												3月
3年目	4月												3月
4年目	4月	5月			8月	9月		11月	12月	1月	2月	3月	
	受験申請				試験	合格通知		申請			認定審査		

専門医研修4年終了
4月1日付で認定

5 プログラムの概要

1) 研修プログラム全般

研修期間は4年間で、前半(2年)と後半(2年)に分けプログラムを構成しており、前半および後半終了時にそれぞれ到達目標達成の評価・確認を行なう。4年間のうち、少なくとも1年以上は福島県立医科大学医学部附属病院での研修を必須とするが、残りの期間は症例数の多い5つの関連病院をローテートし研修を行なう。指導医は全て卒後10年以上の泌尿器科指導医(日本泌尿器科学会認定)であり、原則と

してマンツーマンで責任をもって指導にあたる。

研修内容は下記の 11 項目であり、研修医は 4 年間でそれぞれの項目について泌尿器科医としての確な診断を行ない、治療計画を立てることができるよう指導を受ける。

研修内容

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none">1 . 小児泌尿器科(停留精巣、先天性水腎症、VUR、尿道下裂、etc)2 . 泌尿器腫瘍(副腎腫瘍、腎癌、腎盂・尿管癌、膀胱腫瘍、前立腺癌、精巣腫瘍)3 . 腎不全・腎移植4 . 尿路結石5 . 尿路・性器感染症6 . 内分泌・生殖機能・性機能・男性不妊症・ED7 . 下部尿路閉塞疾患・BPH の薬物療法/TUR-P8 . 下部尿路機能障害/神経泌尿器科9 . 女性泌尿器科(腹圧性尿失禁、間質性膀胱炎、etc)10 . 外傷・救急(腎外傷、精巣捻転症、持続勃起症、結石疼痛、etc)11 . エンドウロロジー・鏡視下手術 |
|---|

2) 到達目標

研修 2 年目までに習得すべき検査

泌尿器科検査
・ 静脈性腎盂造影(DIP)
・ 尿道膀胱造影
・ 排尿時膀胱尿道造影
・ 逆行性腎盂造影
・ 順行性腎盂造影
・ 腎骨盤部血管造影、副腎静脈サンプリング
・ 泌尿器科超音波検査
経腹的：腎、膀胱、前立腺
経直腸的：前立腺、精囊
精巣、精巣上体
・ 泌尿器科内視鏡検査
膀胱鏡検査
尿管カテーテル法
・ 泌尿器科生検
経尿道的膀胱生検

前立腺生検
精巣生検
腎生検

研修 2 年目までに習得すべき処置および手技

- ・尿道ブジー
- ・スタイレットを用いた尿道カテーテル留置
- ・膀胱タンポナーデに対する膀胱洗浄
- ・Duble J カテーテル留置

研修 2 年目までに経験すべき手術

腎臓の手術

- ・経皮的腎瘻造設術：3 例
- ・単純腎摘除術（腹腔鏡を含む）：10 例

膀胱の手術

- ・膀胱瘻造設術
- ・膀胱碎石術（経腹的・経尿道的）
- ・経尿道的膀胱腫瘍切除術（TUR-BT）：25 例

前立腺の手術

- ・経尿道的前立腺切除術（TUR-P）：25 例
- ・前立腺被膜下摘除術：5 例

精巣・陰囊および陰茎の手術（10 例）

- ・包茎手術
- ・除精術
- ・精巣水腫根治術
- ・根治的精巣摘除術
- ・精管切断（結紮）術
- ・腹腔鏡下精索静脈瘤根治術

ESWL(体外衝撃波結石破碎術)

小児泌尿器科手術

- ・精巣固定術：5 例

その他

- ・ブラッドアクセス造設術：10 例
- ・CAPD 用チューブ設置術：10 例

2 年目までに術者または第一助手として経験すべき全症例数：110 例

研修 4 年目までに経験すべき手術

副腎の手術
・副腎摘除術（腹腔鏡を含む）：10 例
腎臓の手術
・根治的腎摘除術（腹腔鏡を含む）：10 例
・腎盂形成術：3 例
・腎移植術：2 例
尿管の手術
・腎尿管全摘除術（腹腔鏡を含む）：10 例
・経尿道的尿管碎石術：5 例
膀胱の手術
・根治的膀胱摘除術：10 例
前立腺の手術
・前立腺全摘除術：10 例
小児泌尿器科手術
・膀胱尿管逆流防止術：3 例
尿路変更術
・尿管皮膚瘻造設術
・回腸導管造設術：10 例
女性泌尿器科の手術
・尿失禁手術：5 例
・脱修復術：5 例
4 年目までに術者または第一助手として経験すべき全症例数：215 例

6 年間症例数等

泌尿器科標準手術件数を示す（2005 年）

福島県立医科大学医学部附属病院	232 件
公立藤田総合病院	112 件
総合南東北病院	240 件
星総合病院	105 件
太田西ノ内病院	397 件
公立相馬総合病院	336 件
竹田総合病院	174 件

7 研修施設・研修責任者等一覧(医大及び協力病院)

施設名	所在地	診療科	指導責任者	専門医数
福島県立医科大学 医学部付属病院	福島市光が丘一番地	泌尿器科	山口 脩	15
公立藤田総合病院	伊達郡国見町大字塚 野目字三本木14	泌尿器科	伊達智徳	2
総合南東北病院	郡山市富久山町八山 田7-15	泌尿器科	深谷保男	2
星総合病院	郡山市大町2-1-16	泌尿器科	片寄功一	2
太田西ノ内病院	郡山市西ノ内2-5-20	泌尿器科	村上房夫	4
公立相馬総合病院	相馬市新沼字坪ヶ迫 142	泌尿器科	熊 佳伸	2
竹田総合病院	会津若松市山鹿町 3-27	泌尿器科	若月秀光	4

8 専門医取得実績(過去5年間)

平成 18 年度	日本泌尿器科学会認定	泌尿器科専門医	1 名
平成 17 年度	日本泌尿器科学会認定	泌尿器科専門医	1 名
平成 16 年度	日本泌尿器科学会認定	泌尿器科専門医	2 名
平成 15 年度	日本泌尿器科学会認定	泌尿器科専門医	1 名
平成 14 年度	日本泌尿器科学会認定	泌尿器科専門医	5 名
平成 13 年度	日本泌尿器科学会認定	泌尿器科専門医	2 名
平成 12 年度	日本泌尿器科学会認定	泌尿器科専門医	3 名

9 評価方法

コースディレクターを中心とした指導医やその他スタッフにより逐次評価を受ける。特に手術手技については、指導医による見きわめチェックが行なわれ、判定結果が研修手帳に記入される。また、卒後臨床研修医や学生に対する指導も評価対象となる。